

今年最後のビッグイベントのFOMCを通過 ～和らぎつつある3つのリスク～



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 23年末の政策金利見直し引き上げ

12月13～14日のFOMC（米連邦公開市場委員会）で、FRB（米連邦準備制度理事会）は0.5%の利上げを決定しました。利上げ幅は前回まで4会合連続で実施された0.75%から縮小した一方、2023年末の政策金利見直しは中央値が9月時点の4.6%から5.1%に引き上げられました。

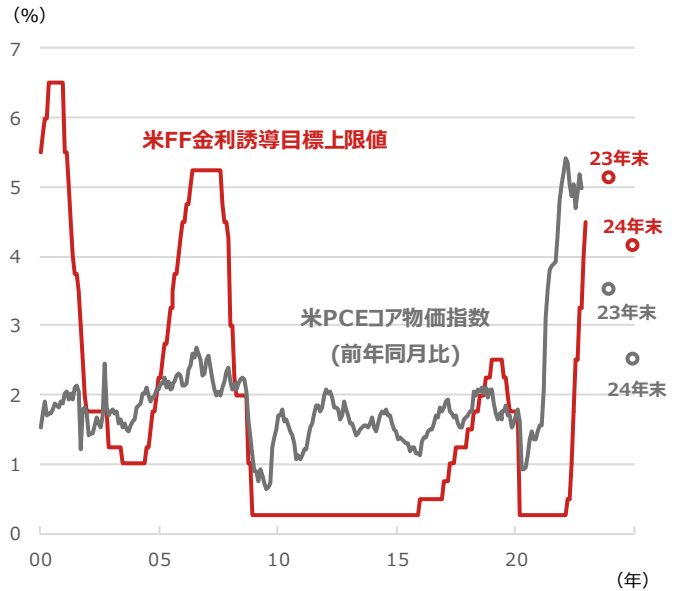
今年は、①米インフレと利上げ加速、②信用不安、③世界的な景気悪化、という3つのリスク要因が顕在化したこともあり、市場は波乱の動きとなりました。ただ今回のFOMCでは、米インフレ見通しが前回から引き上げられましたが、今後鈍化していく流れは変わりませんでした。利上げについては23年まで継続（追加で計0.75%）し、その後も金利水準を維持するものの、2024年には利下げを見込むなど金融政策姿勢が定まってきました。市場予想を上回るFF金利見通しが示されたとはいえ、①を巡る先行き不透明感は和らいできたといえます（右上図）。

ポイント② 3つのリスク緩和で市場は落ち着く公算

信用不安が更に拡大するリスクも薄れつつあるようにみえます。実際、信用リスクを示すとされる米ハイイールド債スプレッドは過去の市場混乱局面と比べ低く抑えられており、来年前半にもFRBが利上げを停止するとの前提に立てば、信用リスクの一段の拡大は回避されそうです。

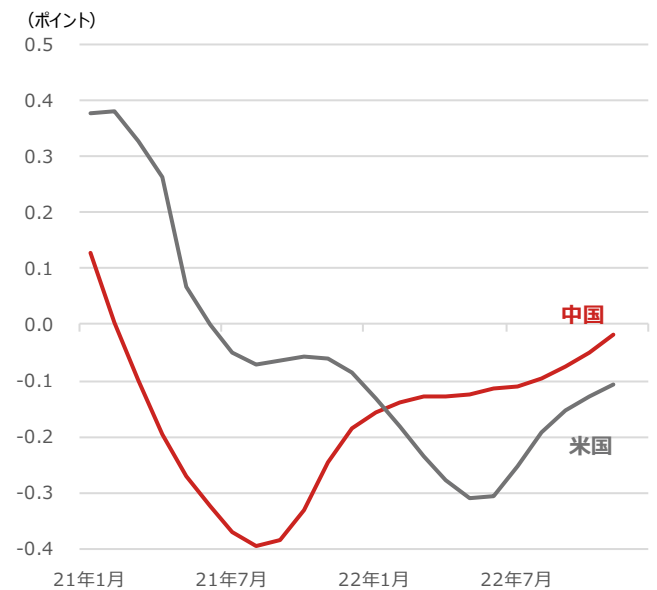
また米中のOECD景気先行指数をみると、悪化度合いが弱まりつつあるなど、世界景気の先行きに変化もみられます（右下図）。中国は足元でゼロコロナ政策の大幅見直しを行っており、来年の世界経済を支える可能性もあります。3つのリスクが和らぐことで、市場は落ち着きを取り戻していきそうです。

米FF金利誘導目標上限値と
米PCEコア物価指数（前年同月比）



期間：（米FF金利誘導目標上限値）2000年1月末～2022年12月14日、月次
（米PCEコア物価指数）2000年1月～2022年10月、月次
○印は2022年12月FOMCで示された2023年末、2024年末の金利・物価見直し（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米国と中国のOECD景気先行指数前月差



期間：2021年1月～2022年11月、月次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。